

河野健男特任教授退職によせて

現代社会学部 現代こども学科 教授

松崎 正治

河野健男先生は、2020年3月31日をもって同志社女子大学を退職された。その時の現代社会学部長として、河野先生を送る言葉を捧げたい。

先生は、1950(昭和25)年生まれである。「戦後生まれの世代も、高度成長による生活変化や60年安保・大学紛争・ベトナム戦争など、内外の要因による日本社会の変動を経験している」

[河野健男(2010)『日本社会の変動と社会学一家族・地域・生活の場面から』八千代出版 p. i]と著書にあるように、先生ご自身も、1960年代末から70年代にかけての激動の時代、同志社大学文学部社会学科、立命館大学大学院応用社会学専攻で学ばれた。先生が多感な青年時代をこの時代、京都という地で過ごされたことは、研究にも大きな影響を与えているであろう。先生の研究は、地域社会の変動、人権問題、観光を対象とした社会学研究である。

先生は、1980年から勤められた山口大学教育学部から、2000年4月に新設された同志社女子大学現代社会学部社会システム学科に赴任された。先の研究を基盤として、社会システム学科での教育を展開してくださった。特に、兵庫県城崎温泉で学生と共に行ったフィールドワークは、学生にも大きな影響を与え、学科の魅力がいっそう高まった。

先生は、研究・教育に力を注がれただけでなく、大学運営の仕事も長期にわたって担われた。2002年度から2003年度まで社会システム学科主任(2年間)、2004年度から初代の近藤十郎先生の後を継いで2007年度まで第二代の現代社会学部長及び研究科長(4年間)を勤められた。2004年度には、現代こども学科が新規に設置され、河野先生は、現代こども学科の初代学科主任も2年間兼任してくださった。学科が軌道に乗る過程を先生に支えていただいた。さらには、2010年度から2012年度まで教務部長(3年間)、2014年度には再び現代社会学部長及び研究科長(1年間)と、10年間の長きに渡って役職を勤めてくださった。

また、初代・隴谷寿会長の後を継いで、2009年度より社会システム学会長、2011年度に名称変更した現代社会学会長を2019年度まで11年間勤めて、本学会を育ててくださった。

先生のお生まれは、静岡県の清水とお聞きしている。清水湊と言え、次郎長(1820-1893)である。1868年、旧幕府海軍の咸臨丸は、清水湊で新政府軍に攻撃された。戦死した乗組員の遺体は、明治新政府の咎めを恐れて誰も処理しようとする者がなく、清水湾内に漂っていたという。これを見かねた次郎長は「死ねばみな仏にござる。仏に官軍も賊軍もない」と言いつて、遺体を収容し埋葬した。次郎長のこの心意気！

河野先生は、偉ぶらず、公平で、ぶっきらぼうだが愛情に溢れ、大変なお仕事を長年ひょうひょうと重ねてくださった。私は、河野先生を清水の次郎長について重ねてしまうのである。

これからは、奥様や愛犬とのお散歩など、ゆったりとした時間もお過ごしください。

私たちは、同志社女子大学で先生と一緒に働くことが出来たことを誇りに思います。ありがとうございました。